

大入貴船神社 里山を彩る一本紅葉

西友枝の大入地区に、紅葉のイラストが入った看板が立っていたので前から気になっていた、大入貴船神社の大もみじ。11月下旬に見頃を迎え赤く色付いた紅葉は、苔むした鳥居や石段とも相まって、とても見応えがありました。その光景は敵かなのどこか落ち着く、不思議な時間の流れを感じました。



今年もこの紅葉に会いに行きます。

11月

地域おこし協力隊が行く！
こうげの町カレンダー

大ノ瀬花公園

夏はひまわりで楽しませてくれた大ノ瀬の花公園に、コスモスやマリーゴールドが咲き誇りました。道の駅のインスタグラムではフォトコンテストも開催。素敵な写真がたくさん集まったようです！



10月

第4回修験道トレイル開催！

11月17日(日)、約230名の選手が修験の山々を駆け巡りました。私設エイドでの差し入れや前夜祭の唐原子供神楽による神楽の奉納など、この町ならではのおもてなしは好評でした。上毛町から唯一参加した地域おこし協力隊の桑原さんも、2年連続の完走で「次こそは町内からも参加者を」と意気込んでいます。

今回は一緒に出場しましょう！



11月

甘みをぎゅっと！ 川底柿の干し柿づくり



町の新たな特産品として期待されています！

干し柿部会による川底柿の干し柿づくりを見学しました。約500個の川底柿を一つずつ丁寧に剥いていき、焼酎入りの熱湯で殺菌してから棚にぶら下げていきます。川底柿の特徴でもある深い溝も特別なピーラーが登場し、むきやすくなったと好評でした。干し柿になるのは年をまたいだ1月中旬頃。渋柿である川底柿は干し柿にすると甘さがぐっと強くなるんだとか。でき上がりが楽しみです！

地域の遺跡を次世代へ 金居塚古墳の整備ボランティア活動

大平楽の裏側に、地元の方にもあまり知られていない「金居塚古墳」があります。古墳時代後期頃に築造され、円墳や横穴の古墳が約27基確認されています。近年は竹や雑木が生い茂り立ち入るのも大変なほど放置されていました。そんな地域の史跡を次世代へつなげようと「下唐原・友の会」のメンバーを中心に有志の方々が月2回集まり、雑木の伐採などボランティアで整備をされています。作業に参加された宮本工さんは、「史跡をきちんと整備して、後世の人たちに郷土の歴史を残したい」と話していました。



大池公園イルミネーション

大池公園のほとりに突如として現れた、幻想的な空間。広島と長崎の被爆樹木2世が植樹された丘をつなぐイルミネーションや、高さ8mの巨大ツリー、背中に天使の羽根が生える撮影スポットもあります。

1月中旬まで楽しめます。ぜひご覧ください！



登り窯に再び 人生の火を入れる

登り窯復活に向け動き出す

畑辺さんは約40年前に下唐原に移住。お茶畑の中にひっそりと佇む「東山窯」を開き、毎年のように登り窯で自身の作品を焼いていきましたが、手軽な灯油窯などを使うことが増え、手間がかかる登り窯からは次第に遠ざかっていったそうです。

軒機が訪れたのは昨年4月のこと。地域おこし協力隊員が取材に訪れた際、使われなくなった登り窯を見て、「もう火は入れないのですか」と聞いたときに畑辺さんは「死ねまでにもう一度、火を入れたい！」自身の年齢や体力のこともあり、もう火を入れるのは難しいと思っていたそうですが、その言葉を聞いて登り窯復活に向け動き出しました。

しかし、15年も眠っていた登り窯で作品を焼くには薪の準備や作品集めなど様々な課題がありました。薪を集めたり、協力隊で作品制作イベントを企画して作品を集めるなど少しずつ準備を進めていきました。

昨年11月30日の朝、お祓いを受けた登り窯へ15年ぶりの火が入りました。登り窯復活の瞬間です。焼き上がりまで約30時間。特に最後の10時間は、薪をレンガ一個分のスペースから投げ込む経験が必要な難しい工程でした。夜通し作業することもあり、生徒さんが食事を持ってきて

くれたり昔火を入れたという方も手伝いに来られ、多くの人から慕われている畑辺さんの人柄も感じ取ることができました。

そんな皆さんの協力もあり、窯焚きは無事終了。緊張感が一気にほぐれ、最後は自然と拍手が沸き起こりました。

窯開きは火入れから5日後に行われました。「登り窯で焼くと炎の当たり方などで色合いが作品に出る。釉薬の変化など、焼きあがるまでわからないところも面白さの一つ」と登り窯の魅力を語る畑辺さん。確かに作品を見ると、土に濃淡があったり、葉がかかった部分が垂れて趣のあるデザインになっていたり。約300点の作品は割れたりすることもなく無事に焼きあがっていました。

「やっぱり一番はイベントで作った人たちの作品が無事にできて良かったです」と話す畑辺さん。今回登り窯を復活することができたのもこの人柄の良さがあつたからこそだと、畑辺さんの作品のぬくもりとともに感じられました。



◀十人十色、それぞれに思いのこもった作品が焼き上がりました。



はたべ げんき
畑辺 玄機さん(下唐原)
町の陶芸教室で
長年講師をされ
今でも新しい作品作りに
挑戦している畑辺さんをご
紹介します。



匠の挑戦に感激！

今回は地域おこし協力隊や地域の皆さんの協力もあって実現した、15年ぶりの登り窯の復活をお伝えします。